

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「学力伸長と進路実現」「心の教育の充実」を教育目標とし、教職員が生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な指導により生徒が学ぶ喜びを経験し、社会に貢献できる力をもった生徒を育みます。学び直しや昼間働くなど様々な条件の中で、「過去は変えられないが未来は変えられる」と強い意志を持ち、夜に学ぶ必要のある生徒を応援します。「三国丘の定時制の生徒なら大丈夫」と学校内外から評価・信頼される学校をめざします。
1) 学業と仕事を両立し、休まずに毎日の授業を大切にする生徒を育てます。
2) 地域に信頼され愛される学校の取組を通して、他者を思いやり、ルールを守って主体的に行動ができる生徒を育てます。
3) 丁寧な個別指導、キャリア教育を通して、社会に貢献できる生徒を育てます。

2 中期的目標

- 1 学力伸長と進路実現（本校キャリア教育の推進）
(1) 学力の定着と伸長を図り、確実な進路実現を果たす。
ア 中学校段階以前の欠落部分を補完することが可能な教育課程を編制し、学習到達度の幅が広い教科（数学・英語）では習熟度別授業を実施し、進路選択時に必要とされる学力を獲得させる。
イ ICT機器などを活用した授業を行い、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用して、組織的な授業力向上にさらに取り組み、学力伸長を図る。
※学校教育自己診断の生徒の授業満足度（「授業はわかりやすい」の肯定率と「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率の平均値）を、R8年度まで80%以上を維持する。（R3 72%、R4 83% R5 88.7%）。

(2) 卒業後の進路を生徒が各自で思い描けるよう、各年次段階に応じて適切な情報を提供し、社会貢献を理解させる。
ア 進路指導計画に基づき、各年次に応じて年間数回の進路選択とキャリア能力の育成のためのホームルーム、及び進路説明会を実施する。
イ キャリアパスポートを活用し、年次に応じたキャリア教育を実施することで、進路意識の段階的醸成を図る。

(3) 進路指導体制の強化により、進路実績の向上をめざす。
ア 卒業年次には、面談、面接・履歴書指導など生徒個々に合わせた丁寧な指導体制により、確実な進路実現を図る。
イ 3年間または4年間を見通したキャリア教育を推進し、卒業後の進路決定に向けた意識を高める。
※R8年度まで学校紹介等による就職と大学・短大等進学の実績（就職、大学・短大希望者総数に対する割合）95%以上（R3 96.0%、R4 96.0%、R5 90.0%）を、若年無業者5%未満をそれぞれ維持する（R3 3.0%、R4 2.5%、R5 16.7%）。

2 心の教育の充実（モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）
(1) 「社会で自信をもって主体的に生きる」ために、他者を尊重する姿勢を身につけさせる。また、地域交流を通じて自己有用感を高める。
ア 「社会の一員」としての自覚醸成のため、生徒有志による地域との連携活動に積極的に取り組む。
※地域清掃活動を年4回（夏季と冬季に各2回）、地元保育園等との交流を年2回（夏季と冬季に各1回）実施することを、令和8年度に向け継続する。

(2) 他者も自分も人権を尊重されるべきかけがえのない存在であることを気づかせ、すべての命を大切にする教育を行う。
ア 社会に生きる多様な人たちと出会う人権学習を行う。
イ 生徒並びに教員の健康・環境衛生の意識・関心を高める。
※R5年度は学年単位での人権HRを2回実施した。R8年度に向け教職員人権研修を含め、より内容を充実して継続する。

(3) スポーツ大会や文化祭など各種行事の参加により仲間との交流を深め、豊かな心を育む。
ア 総合学習「ふるさと堺探検隊」の高い参加率を定着させ、事業主、保護者の理解を得て、R8年度まで75%以上の維持をめざす。（R3 定時制創設70周年記念行事 71%、R4 76.1%、R5 67.0%）この行事の実施により、仲間と協同して堺の歴史と文化を学ぶとともに郷土愛を育む。
イ スポーツ大会、文化祭などの高い参加率を定着させ、R8年度に向け75%以上をめざす。（R3 77%、R4 74%、R5 71.9%）これらの行事を通して仲間との交流の大切さを学び、コミュニケーション力の向上を通じて、豊かな心を育む。

(4) 組織として心の問題に対処できるよう、教育相談体制や個に応じた支援体制の充実を図り、学校への定着と卒業を支援する。
ア 教育相談委員会の機能・機動性向上のためにも外部機関との連携を重視し、さらに外部人材の活用を図る。
イ 学校の課題解決に向け、教職員の専門性を高めるため、外部機関との連携を図り、教職員向け課題研修を充実させる。
※R5年度は教職員研修を7回実施した。今後も外部機関との連携を図り、R8年度まで必要な研修を実施する。
※最後まであきらめさせない指導により年度末の進級・卒業率（進級・卒業生徒数／年度末在籍数）をR8年度に向けて90%以上をめざす。（R3 86.2%、R4 86.5%、R5 81.1%）

3 校務の効率化と働き方改革の推進
(1) 学校行事を精選し、生徒に有意義でかつ教職員にとって過度の負担をかけない学校行事を精選して実施。
(2) 「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取り組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

[学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見]

学校教育自己診断の結果と分析〔R 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】83 人／106 人、質問数 12。 <肯定的回答の割合> ○80%以上 9 項目 60%－80% 2 項目 昨年度に比べて回答数の割合が低いため、高い数値が出ていると考えられるが、概ね生徒たちにとって授業をはじめ本校の教育活動や教員の対応について満足していると考えられる。 【〔質問 1〕学校へ行くのが楽しい】について、今年度は 65.4%と 9 %程度増加はしたものの全項目の中で最小である。授業関連や生徒から教員への信頼度の数値は上昇しており、本校の強みである個々の生徒に寄り添ったきめ細かい対応は一定できていると考えられるが、行事ごとなど生徒が自分たちで考えて行動できるようになれば楽しさも増すのではないかと考える。今後のより良い、教育効果の高い取組みを考えていく必要がある。 【保護者】30 人／106 人、質問数 11。 <肯定的回答の割合> 80%以上 8 項目 60%－80% 3 項目 回答数が少ないので保護者母集団の状況を示していない可能性はあるが、総じて高いレベルである。11 項目中 9 項目で昨年度より肯定率が上昇している。【〔質問 9〕学校の授業参観や学校行事に参加したことがある】について、文化祭では保護者の参加もかなりあったが、授業参観については数値が低い。今後も授業参観や文化祭など保護者にも多く参加していただけるよう努めていきたい。 【教職員】10 人／16 人、質問数 20。 <肯定的回答の割合> 80%以上 14 項目 60%－80% 2 項目 60%未満 4 項目 全体的に 80%を優に超えており総じて高い結果である。とくに 【〔質問 6〕 いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている】は 90.0%（昨年度 73.3%）と 16.7%増だった。これは、全教員が見守りを含めて丁寧に生徒に支援していることが大きい。 【〔質問 19〕学校は組織として、「報告・連絡・相談」が徹底されている】が 40.0%（昨年度 46.7%）、【〔質問 20〕教員間の相互信頼があり、意見を率直に言える環境、雰囲気である】が 60.0%（昨年度 46.7%）となり、質問 20 については増ではあったものの数値としては低い。本校の元々の強みである教員間の相互信頼・連携を取り戻し、管理職、教科及び担任・副担・学年団との協力体制を引き続き、向上をめざす。	【第 1 回 7 月 6 日（土）】 ○一番入学者が少なかったころも知っているので、本校の良さが伝わって生徒数が増えているのは嬉しい。細やかに指導している結果である。通信制に適応する生徒がいるのも事実であるが、本校に期待される役割はますます大きいと考えられる。本校で見られる静かな環境は良い傾向である。 ○通信制高校に入学したがうまくいかない生徒もおり、このような生徒の受け皿であり続けて欲しい。 ○定時制は学びたいときに学べる場所であると思う。学びたい主体性があれば、いつでも学べる学校があるというとても存在意義は大きい。 ○社会との繋がり学べる場である定時制として存続してほしい。 【第 2 回 10 月 30 日（水）】 ○アルバイトを通して、お金のありがたみを理解し感謝を受けながら成長するのではと考える。 ○アルバイトを経験した生徒のほうが外部機関においてサポートしやすい。 ○昔の定時制には色々な立場の生徒が在籍していて、年上の同学年も多かったため、色々な年代の方と接しながら、社会に出ていくことが多かった。今ほど引きこもりの生徒もいなかったと感じている。 ○アルバイトは子どもにとって良い影響を与えていると感じている。良い生活リズムをもたらし、仕事を任せられるという責任感が生まれている。世間の大人に仕事を任されて責任感が育っている。 ○出席日数に関連して、本校生徒には「自分がここの生徒なのだ」という所属感が強印象を受けている。出席が少ないにもかかわらず、attachment や既知感、所属感が育まれている。 ○多くの課題を抱える生徒がいる状況の中、生徒に寄り添いながら話を聞いている様子が伝わってくる。先生方の温かさ、先生に話を聞いてもらえるという安心感から、ここにもいいという意識が芽生えている。また、自分に対して期待を持たせてくれるような、先が見えるような指導がなされている。 ○本校定時制を卒業して活躍している卒業生も多いため、定時制を卒業して終わりではなく、その意味では、本校が 1 つのステップになればいい。 【第 3 回 2 月 20 日（木）】 ○教科指導における本質的な学びに繋がる指導を日ごろからされていると感じた。 ○学校教育自己診断のマイナス評価について、来年度その部分に関してもどうだったのか答えが聞けるような結果になればと思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 学力伸長と進路実現（本校のキャリア教育の確立）	（１）学力の定着と伸長 ア 研究授業、授業アンケートの効果的活用	（１） ア・授業力向上を図るため、各教科での授業アンケートを活用し、教員間の相互授業見学、研究授業・研究協議を実施する。	（１） ア・年２回以上研究授業を継続。[7 回] ・授業アンケートを年２回実施し、後期の評価の平均を前期より向上させる。[2 回] [前期 3. 41 後期 3. 36] ・授業力向上を行うための研修を２回実施。[2 回]	（１） ア・４回（体育 9/13、英語 9/27・英語 10/10、数学 10/15）（◎） ・２回 前期 3. 31 後期 3. 33 後期がやや増加。次年度引き続き授業改善に取り組みたい（○） ・０回（△） 実施できず。次年度は実施したい。
	イ 学ぶ意欲を引き出す	イ・多岐にわたる総合講座等を実施し、自己肯定感を高め、学ぶ意欲を引き出す。	イ・図書室の有効活用。年度末のアンケートで肯定的評価 80％を維持する。[100％]	イ．98％（1/10 実施）（◎）
	ウ わかりやすい授業をめざして	ウ・わかりやすい授業をめざし、ICT 機器等の活用を図り、実技、実習・実験を工夫する。	ウ・生徒の自己診断「授業はわかりやすい」の肯定率 70％を維持する。[90. 2％] ・自己診断「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定率 75％。 [87. 3％]	ウ． ・86. 3％（○） ・92. 1％（◎） 多くの教員が生徒に１人１台端末を活用する授業を行い、学習支援クラウドサービス等を有効に活用した授業が増えている。
	エ 基礎学力の定着・向上	エ・英語・数学での習熟度授業で生徒の基礎学力定着、向上を図る。また、国語においても生徒の基礎学力定着、向上を図る。	エ・基礎学力診断テスト（１年国・数・英）の４月から２月での伸長率（[[年度末平均]—[年度当初平均]] ／[年度当初平均]）を 30％増とする。[国語 4. 7％ 数学 5. 0％ 英語 53. 0％ 平均 20. 9％増]	エ．・国語 12. 6％（○） 数学 28. 8％ 英語 75％増 平均 38. 8％増
	（２）年次段階に応じた適切な進路指導と情報の提供・理解 ア 組織的な進路指導体制	（２） ア・進路部中心に進路指導体制の全体計画を立案し、進路・担任の合同会議で適宜調整する。	（２） ア・進路・担任合同会議を定期的（年５回以上）に開催。[6 回]	（２） ア． 6 回（○） （4/18, 5/16, 6/14, 7/17, 8/30, 10/31）
	イ キャリア教育の推進	イ・多様な生徒のニーズに応えるべく、進路説明会を「概要説明」→「進路決定に必要な準備」→「志望校の決定や求人票の見方」と段階的・体系的に実施する。 ・キャリアパスポートを活用し、進路意識の段階的醸成をめざしたキャリア教育を実施する。	イ・１・２年次生への進路説明会を年２回、卒業学年への進路説明会を年３回実施。[1 ・２年次生 2 回 卒業学年 4 回] ・各学年に応じたキャリア教育を年３回実施。[3 回]	イ．・１・２年生 2 回（6/17 2/14） 卒業学年 4 回（○） （4/17 5/15 6/17 7/16） ・３回（○） （6/21 11/22 1/17） １、２年生は適性検査や教育産業による出前授業など行い、 ３、４年生は就職関連や社会保険労務士による出前授業など行い、学年に応じたキャリア教育を実施できた。
	（３）進路実績の向上 ア 広報活動	（３） ア・積極的な広報活動により、三国丘高等学校定時制の存在をアピールする	（３） ア・卒業生の進路先などを更新し、毎年新たな広報用資料を制作。新たな企業開拓、学校説明に活用。[実施済] ・緊急時にはSNS 又は学習支援クラウドサービスを活用し適切に情報提供に努め、学校行事ブログを前年度以上の回数を更新する。[27 回]	（３） ア． ・広報用資料を作成し配布済み（○） ・生徒は、学習支援システム、教職員、保護者向けに外部のメールサービスを 8/23(金)から活用。学校行事ブログ 32 回更新（△）
	イ 応募前職場見学の実施	イ・学校紹介による就職希望者全員に応募前職場見学を実施させる。	イ・就職希望者全員に応募前職場見학을 2 回以上実施。[3. 2 回/生徒 1 人]	イ． 3. 1 回／１人（28 社/ 9 人）（○）
	ウ 個別指導体制	ウ・進路面談、面接・履歴書指導を行い、生徒個々に合わせた指導体制を作り進路実績の向上をめざす。	ウ・就職・進学希望者全員への面談を実施。[実施済] ・履歴書講座の実施。[実施済]	ウ．・就職・進学希望者全員実施済み ・履歴書講座実施済み（7/17）（○）
	エ 卒業予定者の若年無業者の減少	エ・ハローワークと連携し、卒業後の若年無業者を減少させる。	エ・若年無業者（進学・就職等を希望しない生徒を除く）の割合 5％未満を維持。[16. 7％]	エ． 0％（◎）

2 心の教育の充実 （モラル教育に重点を置いた教育体制の構築）	（１）他者を尊重する姿勢の育成 ア ボランティア活動の実施	（１）自己肯定感を高める目的で、生徒会を中心に下記を実施 ア・地域との連携を踏まえ、地域清掃ボランティア活動を行う。	（１） ア・地域清掃ボランティアの生徒参加者 1 日 10 名をめざし、年 2 回（夏季と冬季）実施。 [合計 108 名、平均 27 名/日 参加]	ア. 地域清掃ボランティア 夏季 7/17 22 名、7/19 29 名 冬季 12/24 9 名、1/8 16 名 合計 76 名 平均 19 名/日 (○) 目標は超過したが、参加人数はやや減少。参加した生徒は積極的に取り組んだ。
	イ 地域交流の推進	イ・地元保育園との交流活動を計画・実施する。	イ・地元の保育園との交流会の生徒参加者 1 回 7 名をめざし、年 2 回実施。または、作製した交流作品の贈呈会を年 2 回実施。 [2 回実施]	イ. 交流会 2 回実施 7/23 7 人 1/22(水) 3 人 (○) 生徒主体で内容を考え幼児にも喜んでもらえていい経験となっている。
	（２）人命尊重の教育の推進 ア 多様性を学ぶ人権学習を実施	（２） ア・社会に生きる様々な人たちと出会い深く考える研修や人権学習を企画する。	（２） ア・人権教育推進委員会が中心となって教員向け 2 回[2 回]、生徒向け 2 回実施 [2 回]。	（２） ア・【教職員】 2 回実施 (○) ①6/12「崇仁で考える部落差別ーアイデンティティの視点からー」 ②7/26 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター訪問 【生徒】 2 回 ①6/25 1・2 年「性の多様性」 3・4 年「将来の自己実現に向けた進路への人権学習」 ②1/21 1 年「デートＤＶ」 2 年「アイヌと多文化」 3 年「北朝鮮による拉致被害」 4 年「アサーションとは」
	イ 健康への関心を高められる健康診断受検率の維持	イ・生徒の健康への関心を高め、疾病の早期発見・早期治療をめざすため、健康診断受検率を維持する。	・ＳＮＳ等情報モラルについて年 1 回実施。[1 回] イ・健康診断の受検率（内科検診、歯科検診、身体測定、尿検査、心臓検診の平均値） 85%以上を維持する。 [94.8%]	・ＳＮＳ講習会 1 回実施済(4/12) (○) イ. 受検率の平均 98.8% (◎) ほぼ全員受験済み
	ウ 健康・安全への関心を高める	ウ・生徒の健康・安全への関心を高めるため、生徒向け各種研修を実施する。	ウ・薬物乱用防止、交通安全講習等必要なテーマで研修を計画的に行い、生徒アンケートの肯定評価 85%以上を維持する。[薬物乱用 97.0%、交通安全講習 100%]	ウ. 薬物乱用防止教育 6/28 (◎) 実話も含めた講演をした。 生徒アンケート肯定率 98.7% 交通安全講習 1/14 警察官からの講話を実施 生徒アンケート肯定率 97.3%
	エ 美化意識を高める	エ・清掃活動を通して、生徒の美化意識を高める。	エ・全生徒による大掃除を年間 2 回実施。 [2 回]	エ. 2 回実施 (6/4 10/29) (○)
	オ 環境への関心を高める	オ・生徒の環境への関心を高めるため、生徒保健委員会を開催する。	オ・生徒保健委員会を年間 3 回実施。[3 回]	オ. 2 回実施 (5/23、10/24) (○) 主に美化活動を実施し、校内美化に対する意識を強めることができた。
	（３）各種行事の参加により自尊感情を高める ア 郷土愛を育む	（３） ア・総合学習「ふるさと堺探検隊」を実施する。	（３） ア・「ふるさと堺探検隊」における生徒の参加率の 75%以上の維持をめざす。 [参加率 67.0%]	（３） ア. 全体 64.0% (△) 1 年 42.5% 2 年 82.5% 3 年 72.2% 4 年 61.5% 今年度は 10 月から 9 月実施に変更したため、残暑が影響したと考えられる。
	イ 仲間との交流を通し豊かな心を育む	イ・スポーツ大会、文化祭などの行事を活用し仲間との交流を通して、コミュニケーションの大切さを学び、豊かな心を育む。	イ・スポーツ大会及び文化祭における生徒の参加率それぞれ 75%以上をめざす。 [スポーツ大会 80.0%、文化祭 63.8%] ・生徒の自己診断「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 80% 以上をめざす。[82.1%]	イ.・スポーツ大会 5/24 参加率 64.9% 文化祭 10/25 参加率 63.6% (△) ・87.1% (○) 今年度は盛り上がる企画が多かった。保護者等も多数参加された。
	（４）教育相談の充実と学校への定着、進級・卒業の支援 ア 三国丘（定）の存在を地域にアピール	（４） ア・多様な支援を必要とする生徒に三国丘（定）の存在を地域にアピールすべく広報を行う。	（４） ア・堺市内を中心に 30 校以上の中学校訪問を行なう。中学校教員対象説明会の開催、広報誌等を送付するなどして、本校の良さをアピールする。[訪問 35 校]	（４） ア. 学校訪問 32 校 (○)
	イ 支援を必要とする生徒の情報共有	イ・支援を必要とする生徒の情報を共有し情報交換を行うため、ＳＣやＳＳＷを活用し、教育相談委員会を定例で開催する。	イ・教育相談委員会を月 1 回以上開催。職員会議等で月 1 回情報共有を行う。 [1 回/月]	イ. 教育相談委員会 10 回実施 (○) 外部連携、専門人材との協力が多かった。職員会議では特筆すべき案件のみ情報共有を行った。

府立三国丘高等学校 定時制の課程

	ウ 外部機関との連携強化 エ 日本語支援の必要な生徒の困り感を解消 オ 相談機関との連携 カ 学校課題解決に向けて キ 相談しやすい環境づくり ク 進級・卒業率向上をめざして	ウ・帝塚山学院大学大学院と連携し、ハートケアサポーター機能を高める。 エ・日本語支援の必要な生徒の困り感を低減する。 オ・生徒、保護者からのＳＣやＳＳＷへの相談体制や外部の相談機関等との連携を継続強化する。 カ・本校が直面する学校課題解決に向け、教職員向け研修を実施する。 キ・担任、ＳＣ、ＳＳＷ、教育相談委員会の連携システムを強化し、生徒が相談しやすい環境づくりを行なう。 ク・最後まであきらめさせない個々の生徒への指導・支援により、学校への定着を図り、進級・卒業を支援する。	ウ・公認心理師候補の大学院生が教育相談のサポーターとして年 40 回来校し生徒支援にあたる。[53 回] エ・日本語支援の教育活動をすすめ、当該生徒の取り出し授業を 45 回実施することにより、進級または卒業をめざす。[0 回]（対象者なし） オ・生徒、保護者からのＳＣとＳＳＷへの相談についてそれぞれ年間回数 20 回以上をめざす。[ＳＣ 48 回 ＳＳＷ 55 回] カ・教職員向け研修を年 6 回開催する[7 回]。 キ・生徒の自己診断「担任の先生以外にも気楽に相談できる先生がいる」の肯定率 70%以上を維持する。[85. 5%] ク・年度末の進級・卒業率（進級生徒数／年度末在籍数）90%以上を維持する。[81. 1%]	ウ. 94 回 (◎) 授業に入り込み学習補助や相談室での生徒対応をしていただいた。 エ. 0 該当生徒なし オ. ＳＣ 34 回、ＳＳＷ 75 回 (○) ＳＣへの相談がやや減少。どちらも非常に生徒支援にご協力いただいた。 カ. 9 回実施 (○) ①【進路】「新規高等学校卒業者の就職指導について」7/11 ②【進路】「堺ユースサポートセンターについて」11/7 ③【教育相談】「高校ソーシャルワーク」7/18 ④【教育相談】「心理検査結果の見方とその特性の把握」8/27 ⑤【人権教育推進委員会】「崇仁で考える部落差別ーアイデンティティの視点からー」6/12 ⑥【人権教育推進委員会】阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター訪問 7/26 ⑦【生徒指導（保健）】A E D 研修 7/12 ⑧【情報】「新統合 I C T の活用について」12/24 ⑨個人情報に関する研修 2/10 キ. 81. 8% (○) 保健室や相談委員が良く対応してくれた結果である。 ク. 81. 0% (○)
3 校務の効率化と働き方改革の推進	(1) 学校行事を精選。 (2) 働き方改革の実行と推進 (3) 報告・連絡・相談体制の徹底と教員間の相互信頼関係の構築	(1) 生徒にとって有意義な行事の実施。 (2) 教職員の心と健康を守るため、長時間勤務の是正を図る (3) 教員間が互いに信頼しあえる学校の風土づくりに努める。	(1) 生徒の自己診断「スポーツ大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 80%以上をめざす。[86. 2%] (2) 1 ヶ月あたりの時間外在校時間の平均値 20 時間以下を維持する。[15 時間 11 分] (3) 学校教育自己診断の「組織として『報告・連絡・相談』が徹底されている」という項目については、80%以上をめざす。[46. 7%]「意見を率直に言える雰囲気である」という項目については 70%以上を維持する。[50. 0%]	(1) 77. 6% (△) 下級生も上級生に負けないくらい積極的にプレーをしており、生徒はみな生き生きと楽しんでいた様子がうかがえた。 (2) 4 月から 12 月までの平均 12 時間 20 分 (◎) (3) 40% 60% (△) 一方は数値が上昇したものその他方は昨年度に届かなかった。次年度は、教員環境の改善に取り組みたい。